

2019年04月23日（火）【外為Lab】松田哲

タイトル：【GW期間中の対応】

ゴールデンウィークは、休んだ方が良く、と考えます。

この場合の休むとは、すなわち、ポジションを取らない、ということです。

『ゴールデンウィーク明けに、どのように対応するのか?』を考えながら、相場を見ていることも、ポジションを取らなければ、休んでいると同じです。

(=そういった対応も、休んでいるということです)

+++++

昨日までは、海外市場がイースター休暇で休場のところも多かったのですが、イースターを終えて、今週末からは、日本のゴールデンウィーク（GW）に突入します。

今年は、特別な年で、改元もあり、カレンダーでは10連休になります。

クリスマスとゴールデンウィーク（GW）の時期は、毎年同じ事を言っていますが、市場参加者の少なくなる期間は、リスクが高くなることを認識する必要があります。

今年（2019年）の年初（1月3日）の相場を思い起こせば、

『市場参加者の極端に少ない時に、突飛なことが起こる可能性がある』
ということ、理解できると思います。

通常のGW期間中ならば、仮にマーケットが動いても、市場参加者はやる気を失っています。

東京市場の休場に合わせて、世界中の市場参加者も休みを取るため、マーケットが極端に薄くなります。

商い（取引）が薄くなるので、値が飛びやすくなります。

だから、GW期間中は休むことが一番良いと考えますが、どうしても取引したいというのであれば、片手間ではなくフル態勢で臨むべきです。

直ぐに、マーケットの値動きに対応できるように、万全の態勢を整えておく、ということです。

ポジションを小さくして、万が一の時でも深手を負わないように、細心の注意を払って取引をする、といった対応が望まれます。

ポジションを取らずに、見ているだけならば、休むと同じです。

決して、見ているだけの対応を非難しているのではありません。

むしろ、そうした方が良く、と考えています。

ゴールデンウィーク（GW）は、しっかりと休んで、英気を養い、そして、GW明けの5月7日（火）から、しっかりと相場に臨めば良い、と考えています。

+++++

（2019年04月23日東京時間13：50記述）